

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

1. 活動のテーマ

<テーマ>

土(自然)

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)

・感触や性質の異なる砂(土)に触れて遊ぶ中で、「硬いものを作りたい」という思いが生まれていた。試行錯誤しながら水の量を調整したり、砂の状態を確かめたりする姿が見られたことから、本活動を設定した。

2. 活動スケジュール

活動内容: 砂や土を使った泥団子作り・表現遊び

子どもの姿・流れ: 砂場での型抜きや団子作りから、徐々に「もっと作り込みたい」という姿が見られるようになる。次のステップとして黒土を提案したのち、絵本をきっかけに「光る泥団子」への興味関心が高まったため、素材を「荒木田土」へと展開していく。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

- ・荒木田土(赤黒) 黒土 砂場用の砂
- ・泥団子を寝かせるための牛乳パック・磨くための布

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

様々な土や砂に触れ、水の加減による変化や「上手くいかない」試行錯誤を経験する。年上の先達は大きさや硬さにこだわり、素材を黒土へと広げていった。絵本を機に「光る泥団子」作りへ発展すると、乾燥によるひび割れや破損といった失敗に直面。しかし、子どもたちは悔しさを味わいながらも諦めず、「どうすれば割れないか」を考えながら、何度も粘り強く理想の泥団子作りに挑戦する姿が見られた。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

多様な土に触れ、試行錯誤を重ねながら「光る泥団子」作りに挑戦。途中で壊れて悔し涙を流す姿もありましたが、年上の子が優しく声をかけアドバイスをすることで、諦めずに再挑戦する逞しさが見られました。また、団子の保管場所(寝床)を作る際には、仲間の分まで自主的に用意するなど、周囲を思いやるチームとしての一体感も育まれていきました。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

今回の活動を通して、子どもの「悔しさ」という強い感情こそが、次への探究心や他者を思いやる優しさを引き出す原動力になるのだと改めて気づかされました。壊れて涙する仲間に自然と寄り添い、アドバイスを送り合う姿からは、異年齢ならではの縦の繋がりと、クラス全体の確かな「チーム感」の育ちを実感しています。保育者が一人のプレイヤーとして同じ目線で挑戦し、毎日の変化に共感し続けたことが、子どもたちの「認められている」という安心感や主体性に繋がったと感じています。結果の成否だけでなく、試行錯誤のプロセスに深く寄り添い、互いに支え合える環境づくりを大切にしていきたいと思いました。